



米沢有為会 仙台支部だより

第 32 号

令和6年12月20日

発行者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 鈴木 修治

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

広瀬川河原の芋煮会 R6.10.26 参加者 12 名

有為会の近況

総会の開催

令和六年六月二十九日(土)

午後一時より

スマイルホテル仙台において、支部会員十五名の参加を頂き支部総会と講演会を開催しました。

総会

総会進行 滝口政彦理事

開会の挨拶 塚原保夫氏副支部長

支部長挨拶 鈴木修治支部長

議事

議題

一、令和五年度事業・決算報告と監査報告

二、令和六年度事業計画案と予算案

三、支部役員を選任

今年度事業計画では仙台興譲館寮エアコンの設置を含めて承認されました。

支部役員選任で遠藤光広理事を副支部長に選任し承認されました。

報告事項

一、仙台支部及び仙台興譲館寮の状況

東京本部の了承を得て七月中旬に仙台興譲館にエアコンを設置しました。寮生は現在七名が入寮しています。

報告事項

二、会員の異動

総会時点の会員数は八十三名です。

賛助・正員が八十一名、法人会員が一人です。

仙台支部会員の高齢化が進み、若い人の入会増進のため仙台興譲館寮出身者へ勧誘のはがきを出しました。

三、支部だよりの発行

滝口理事が編集責任者として仙台支部及び興譲館寮の近況等を掲載し、春と秋支部会員に年二回送付しております。

講師 東北大学理学部 今井良宗准教授

(略歴) 米沢興譲館高校卒業、東北大学工学部卒、日本原子力開発機構や東京大学総合文化研究科に勤務、有為会仙台支部理事

演題「超電導の不思議な世界と最近の研究動向」

超伝導について大変興味深くまた先端的な研究内容を我々にも理解しやすくお話頂きました。ありがとうございました。

講演会終了後、仙台三越屋上のビアガーデンに移動して興譲館寮の今昔や

・ 1 ・

近況等についてそれぞれ楽しく歓談しました。

交流会の開催

夏の交流会 写真4頁

八月五日(月)午後六時より仙台湖興譲館寮の屋上において仙台七夕まつり前夜祭の花火大会時に寮生、寮母、支部署理士11名の参加者で、花火を見ながら歓談しました。

秋の交流会 写真1頁

十月二十六日(土)午後一時より仙台興譲館寮近くの広瀬川河畔において芋煮会を開催しました。寮生、会員11名の参加があり、米沢から取り寄せた里芋と牛肉がふんだんに入った芋煮を食べながら和やかに話し歓談しました。

(鈴木修治文部長)

興譲館寮の先輩より

米沢有為会仙台支部だよりに寄せて

塩田 元

初めに私のことを簡単に説明させていただきます。私は山形大学を卒業した後約1年間地元企業に勤めましたが、退職し、公認会計士の資格を取得するため仙台の専門学校に入学しました。その時お世話になったのが仙台興譲館

寮でした。無事合格し監査法人に就職したのが2014年(27歳)でしたので、早いもので気づけば10年の月日が過ぎました。結婚し子供も生まれていくわけですので、それもそのはずです。3年前に転職し、今は父の経営する会社で経営者としての一歩を踏み出したところです。

役職柄、幅広い年齢、幅広い立場の方にお会いする機会があるのですが、10代から20代前半の若い方と話をすることがほとんどありません。まさに寮生の皆さんの世代ですが、皆さんは日々どのように過ごしているのでしょうか。私は、今の学生たち、若者たちがどのように将来を見据えているのか、どんな夢を抱いているのか、あるいはどんな悩みや不安を抱えているのか非常に興味があります。

勝手なイメージですが、何かと悩みや不安が先に来る年代かと思えます。自分自身を振り返ってみても、高校生のころからずっと進路選択には悩んでいましたし、就職活動もどこか他人事という感じで、最初に勤めた会社を退職するまで明確な目標を掲げてそれに向かって進んでいくという経験がない人生でした。将来に明るいイメージを持って常に漠然とした不安に包まれている感覚があり、それでいて、自分はずっとやれる、力を向ける先が見つつか

ていないだけだ、というような自惚れや、焦りや、やるせなさといったものを感ぜながら生きていた記憶があります。

しかし、人が何かを予想するときは、自分の経験に基づきがちです。私が学生だった頃も、しっかりと将来計画を立てて動いている友人も大勢いました。ですから、私のこんなイメージとは違って、今の多くの若者が将来に希望を持っていて、むしろそうであってほしいと願ってやみません。

私たちが普段触れる情報は、全体のごく一部のサンプルに過ぎず、それが母集団全体の平均的な姿を表しているとは限りません。その典刑例が、自分の周囲にいる若者だけを見て、あたかも世の若者すべてがそうであるかのように言う「最近の若い者は」という呪いの言葉です。こういった言説はネット記事でもしばしば見かけますが、それを書いている記者の主観に過ぎず、客観的なデータに裏付けられているものなのかどうか疑問を感じるものも少なくありません。

インターネットやスマートフォンに代表される情報通信技術の急速な発展とそれに伴う情報伝達態様の变化により、私たち一般庶民にまで、非常に高いメディアリテラシーが求められるようになってきていると感じます。マスメ

ディアやインターネットから入ってくる情報を鵜呑みにすることなく、何が正しい情報で何が間違った情報であるかを常に気を付けながら選択して利用しなければなりません。さらには、正誤を判別できない情報をどのように扱っていくかということもよく考えなければいけないのです。

学校教育におけるデジタルデバイス利用度合いが大きくなっていることは知るところだと思えますが、様々な領域で人と情報のかかわり方が変わってきています。もはや、すでに変わったと言えるものさえあるでしょう。このことは、従来の「あたりまえ」を変えていくということであろうと私は理解しています。自分としては、何か一つのテクノロジーの恩恵を受けているだけ、新しいサービスの一つを享受しているだけ、というつもりでも、大勢の人が同様にしているうちに、いつの間にか世の常識が変わっている、ということに直面することでしょう。

自分が当たり前だと思っていることに対して期待したような共感が得られないということ、世代間ギャップとして特に強く現れてくると思えます。それだけ世の変化が速いということだと思えますが、情報技術のみならず、生活環境、教育方針、グローバルイズム、その他の様々なものに起因しているとい

うことは言うまでもありません。果たして、人々のマインドの変化、アップデートがこのスピードに追いついているのか、ということに不安を感じます。少なくとも自分は全く追いついている自信がありません。

ですが、ここで改めて考えなければいけないと思うことは、そもそも、世の常識やこうあるべきという普遍的な価値観というものが与えられて、自分がそこに合わせに行く、自分をアップデートしていく、という発想が本当に適切なのか、ということですが。

最も大切なのは、自分がどうしたいのか、ということだと思っています。そして、翻っては、相手をリスペクトし相手の考えにも理解を示しながら、いかにしてそのコミュニケーションにおいて皆が賛同していける合意を形成していくかということが大切なのだろうと思います。私は、今の時代は正にその作業を行っている真っ只中なのではないかと感じています。

例えば、働き方改革という言葉が叫ばれて久しいですが、皆が合わせるべきモデルとなるような働き方などというものは存在しないでしょう。働くことから何を得たいと考えているのかを整理し、その実現のために知恵を出し合う。そういうことなのだと思います。これからの経済についても同じよう

なことが言えるのではないかと考えています。物質的な面に目を向ければすでに相当の物が充足している感があるこの現代社会において、人間の衣食住にまつわる自然発生的な需要を満たすだけの経済の仕組みでは大きな成長は期待できないのではないかと思います。人がどのように生きていきたいと願うのか、社会をどのように良くしていきたいと考えるのが改めて問われているのではないのでしょうか。経済合理性が伴うことを前提にそこに新たな価値を見出し、その実現に向けて持続的に成長していく未来を思い描きたいものです。

最後にもう一度、若い人たちへ向けてメッセージを送らせていただきます。繰り返しになりますが、世間の流れに翻弄されることなく、物事の本質を見極め己がよいと思ったものを選び取っていく力を養ってください。そうやって下した判断、選択に身を委ね、必要に応じて柔軟に軌道修正しながら、着実に歩みを進めていただきたいと思えます。自ら決めたことであればどんな結果が待ち受けていたとしても後悔はないはずですが。

また、自分の故郷にも少し目を向けてほしいと思います。今、この置賜地域も深刻な人材難に苛まれています。地方もまた大きな転換点を迎えているよ

うに思います。あらゆる分野で活躍のチャンスがあり、世の役に立てる仕事があるのです。

寮生の皆さん、家族や生活を共にするメンバー、周囲の人々、先人たちへの感謝を忘れることなく学生生活を駆け抜けてください。

(平成26年卒寮 山形市在住)

会員異動

入会

渋谷 拓 (賛助会員) 令和5年卒寮

退会

黒澤 和彦 (賛助会員)
森下 和夫 (賛助会員)

仙台支部年間行事

※仙台興譲館行事

- 4月13日(土) 大掃除・寮生総会
- 4月 ※新入寮生歓迎会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館) 4月20日(土)
- 6月 令和6年度仙台支部通常総会・講演会 6月29日(土)

会場: スマイルホテル仙台南分町
講演会講師: 東北大学理学部准教授

今井良宗氏(1997年入寮)
演題 「超電導の世界とその応用技術の展望」

■令和6年度米沢有為会定時総会 6月22日(土)

会場: 米沢市「伝国の杜」

■8月以降の支部行事

夏の交流会(七夕前夜祭・広瀬川原花火鑑賞会) 8月5日(月)

秋の交流会(芋煮会) 9月28日(土)

■12月 ※忘年会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館) 12月7日(土)

■1月 ※新年会兼卒寮生歓送コンパ(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)

1月18日(土)

※1月〜3月 入寮面接回数

**支部 だより
原稿募集**

随想、旅行記、趣味など何でも結構です。次号は来年6月発行予定です。是非投稿ください。

行事報告

花火大会鑑賞会(支部主催)

日時 令和6年8月5日
会場 仙台興譲館寮屋上
参加者 計11名



芋煮会(支部主催) (写真1頁)

日時 令和6年10月26日
場所 牛越橋下広瀬川河原
参加者 計11名

忘年会(興譲館寮主催)

日時 令和6年12月7日
会場 仙台興譲館寮食堂
参加者 会員5名 寮生7名 計12名



寮周辺の動植物記

今回は寮の近くの動物・植物(群落)について記します。

寮から西に15分歩くと1972(昭和47)年に国の天然記念物に指定された「青葉山の東北大学のモミ群落」があります。伊達政宗が仙台城を築城以来、敵の侵入を防衛するために御裏林として管理され、みだりに一般市民の侵入を禁止して保護してきたことによる。百万都市としては極めて貴重な原生林に近い組成を持つ群落及び生態系として貴重です。青葉山にはクマ、イノシシも生息しており、前支部長の甲國信さんが数年前、車で青葉山を通った時クマに遭遇し、危険なので警察に通報したと聞いています。

青葉山の広瀬川を挟んで西隣の山は伊達政宗の墓瑞鳳殿がある霊屋経ヶ峯で見事なスギ植林がある。ここにも今年クマが現れている。クマはさらに南東に約1km離れた大年寺山まで数年前に現れている。

さらに大年寺山、三神峯公園、鉤取と低い丘陵が断続的に続くが、とぎれとぎれに住宅地にもなっている。数十年前、鉤取の山を歩いていたら、尾根筋に杉並木が遊歩道脇に2列に残っていたので、下の家の方に尋ねたところ「政宗

ロード」だという。何に使ったのだろうと長いこと疑問に思っていた。

たまたま仙台市博物館に行った時、江戸時代の絵図が展示してあり、そこには大年寺山から西の方の尾根筋に「政宗ロード」の杉並木が描かれているではないか。学芸員に尋ねたら「しし土手」だという。動物が山から街に入っていないように土手を築いて杉を植えたそうです。よく見ると大年寺山にもその跡が残っている。

「しし土手」の「しし」は何かと調べてみると、イノシシかシカである。長い間不明だったが、これを書いていて瑞鳳殿の脇に「鹿落(ししおち)」という地名があるのを思い出した。ネットで検索すると「霊屋下にまたがる坂道で広瀬川と経ヶ峯の間にある急斜面で鹿(鹿もしくは猪)が下りて来る坂ということで名づけられた」とある。仙台市には今はイノシシはいるが二ホンジカはいないが、江戸時代はどうだったんだろうか。

(仙台興譲館長 滝口政彦)

編集後記…コロナ禍で開催できなかった支部・寮主催の行事が5年ぶりにできたことはうれしい。ただ昔の感覚で実施したため不興を買うようなことがあり、お詫び申し上げます。

責任者 滝口政彦